

## 本の紹介

アンディ・ウィアー著・小野田和子訳「プロジェクト・ヘイル・メアリー」上・下、早川書房、328p、320p、  
2021年12月16日発行  
2,100円（各巻・税別）、ISBN978-4-15-210070-2、  
978-4-15-210071-9

2023年1月29日、日本地学教育学会の支部企画『おうちで地学：著者と語ろう！』が開催された。小説家伊与原新氏をお招きした公開インタビューである（伊藤ほか、2023）。そこで触れられたのが本書であった。それまで著者のアンディ・ウィアーのこと、ましてこの小説についても知らなかった。話題はすぐにウィアーのデビュー作『火星の人』に移ってしまい、『プロジェクト・ヘイル・メアリー』は書名が紹介されたのみであった。そのためはからずも、「事前情報を一ミリも入れず」この物語の世界に浸ることができ、とても幸運だった、と今になって思う。

ウィアーのファン、もしくは『プロジェクト・ヘイル・メアリー』を読み感動した人たちが、最近SNS上で少しにぎやかだ。それには理由がある。この作品の映画化が決まったのだ。その発表が2025年6月であり予告編の第一弾が公開。そして2025年11月には予告編の第二弾が、当然、より踏み込んだものとなる。

書籍で『プロジェクト・ヘイル・メアリー』を読み、感動した人々は、これからこの物語に触れる皆さんにも、できればまっさらな状態で臨んでほしいという思いが強い。SNS上のつぶやきから一つ紹介しよう。

「なぜこの忙しいのに夜を徹して『プロジェクト・ヘイル・メアリー』（アンディ・ウィアー、小野田和子訳、早川書房）を読んでしまったか」というと、この先映画館でいきなり予告編に遭遇してしまうという事態を回避したかったから。「事前情報を一ミリも入れずに読むべき」という友人の教えは正しかった。」[URL 1]。

このような声を複数目にする状況となって、たまらず約二年ぶりに朗読を聴きかえしてみた。実は私はこの本を文字情報としては読んでいない。朗読で聴いた

のみである（電子ブックは朗読で意味が通じにくいところを確認するために用いた）。

朗読は声優の井上悟氏。これがまたよい。作中で使われている言葉を日常生活で使ってしまいそうになるほど伝染力も強い。

さて、「事前情報を一ミリも入れず」といいながら、なぜここで紹介しているのか。多少のネタバレも仕方なし、それでもお薦めしたいという評者のお節介に加え、理由は二つある。

まず中学校の理科教師が大活躍（大活躍という言葉ではまったく足らないほどの大活躍）する物語だから。数物化生地のすべてに精通する科学オタクであり、子どもが大好きな理科教師が話の中心だ。

そして「『プロジェクト・ヘイル・メアリー』から考える科学」という書籍が成立すると思えるぐらいに科学が真っ正面から扱われているから。

科学読みものではなくSFなので、もちろんフィクションとしての飛躍はあるが、様々な場面で科学が登場する。学校の授業でどういう意味があるのかわからないままに教わった内容が、「なるほど、こういう場面で役立つか」と何度もうなづかれた。また作中、登場人物は何度も計算を試みているが、それを追ってみるのもおもしろいだろう。

満を持してというか、評者も二度目の聴了ののち、映画予告編を見てみた。たしかにネタバレ要素はあるが、大きな問題にならない。予告編を見てしまった方々も安心して読んで（もしくは聴いて）ほしい。なお、2026年1月には文庫版も出る模様である。

### 引用文献

伊藤孝・小森次郎・菅原久誠（2023）みんなの地学、4、44-52。

### 参照 URL

[https://x.com/s\\_mogura/status/1942402051704775064](https://x.com/s_mogura/status/1942402051704775064)

（2025年12月12日閲覧）

（茨城大学 伊藤 孝）

2025.12.14 受付

2025.12.16 学会ニュースレーター公開

2025.12.16 学会ホームページ公開